

一、次の各問に答えなさい。

問一 次の①～⑤の傍線部を正確に漢字で答えなさい。

- ① のぼる朝日をオガむ。 ② 日本国ケンポウを学ぶ。 ③ 約束をやぶる。
- ④ 台所をセイケツに保つ。 ⑤ 教科書をロウドクする。

問二 次の①～④の傍線部の漢字の読みを正確にひらがなで答えなさい。

- ① 注文を承る。 ② 木の幹の幅を測る。 ③ 説明に納得する。 ④ 念願が成就する。

問三 次の①～③の外来語を訳した言葉として、正しいものはどれか。〈選択肢〉より選び、記号で答えなさい。

- ① アート ② シンボル ③ モラル

〈選択肢〉

- ア、道徳 イ、意見 ウ、象徴 エ、環境 オ、芸術

問四 次の①～③の意味を持つ「ことわざ」を〈選択肢〉より選び、記号で答えなさい。

- ① すべきことを分かっている人が、自分では実行しないこと。
- ② 他人の言動を見て、自分の人格をより良くすること。
- ③ 人に親切な行いをすれば、やがて自分にも良いことがめぐってくること。

〈選択肢〉

- ア、渡る世間に鬼はない イ、情けは人のためならず ウ、転ばぬ先の杖 エ、他山の石 オ、医者の不養生

二 次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

現在では、世界中の子どもたちが、文章が書けたり読めたりできるように、文字を習い、作文や読み方を学習しています。そのために、ある年数、学校へ通うことが義務となつていゝことが多いのです。日本では明治五年、一八七二年に義務教育の制度ができて、急速に、識字率（字を読んだり書いたりできる人の全人口の中の割合）が上昇しました。

文字を読んだり、書いたりすることができなくても、生きていくことはできます。ほんの数十年前まで、誰も文字を読んだり書いたりしないし、文字という存在さえ知らない人ばかりの社会もありました。そんな社会では、知識はすべて、口から耳へと伝えられました。a、話し言葉だけで書き言葉のない社会だったので。社会全体がそうであるなら、なんの不都合もありません。自分の耳で人の言うことをしっかりと聞き、記憶し、それをまた別の人々に伝えればいいのですから。

A

耳で聞いた内容を記憶できる量には、もちろん限界があります。b、その限界は、私たちが想像するよりもはるかに大きく、ほとんど奇跡^{きせき}としか思われぬほどの分量を記憶し、語ることでできる人びとがいるのです。古い日本の書物の中で「語部」と記されている人びとがそれにあたります。

現在も、c、西アフリカに語部はいて、何日間にもわたつて語り続けるほどの内容を記憶しています。それには、特殊な才能と訓練が必要なので、その社会の人びと全員がそれほどの分量を記憶できるといふことではありません。

B

現在から千三百年ほど前にでき上がったと考えられる『古事記』という本には、その初めのところに、^①ヒエダノアレという語部が語つた内容を、中国から取り入れた漢字を使って、オオノヤスマロという人が記録したこと、d、それがたいへんな苦勞を伴うものであつたことが記されています。

語つたりそれを聞いて理解し、それをまた語るることによつて別の人に伝えることと、ある内容を文字で記して別の人に伝えることとの間には大きな¹へだたりがあります。文字が伝える内容が、それを伝える人にとつても伝えられる人にとつても、同じ内容として理解されることが必要だからです。伝える側の内容と受け取る側の内容が同じである必要は、口から耳への話し言葉でも同じです。しかし、文字による伝達は、伝える側の人と受け取る側の人何百キロメートルも離れていたり、伝える人が死んで何年もたつて受け取る側の人に内容が伝えられることもあり、求められる共通性はもつと高くなります。

C

『古事記』で使われた文字は、中国の漢字です。でも、その漢字は、一つひとつの文字が意味を持つ、いわゆる「表意文字」ではなく、漢字を発音する時の音を、その当時の日本語の発音に合わせてあてはめるという方法を用いました。この方法は、その後に編さんされた和歌集である『万葉集』でも使われました。でも、その頃から、漢字が本来持っている表意文字としての機能も、日本人が日本語にあてはめて使うようになり、つまり漢字を、文字は同じでありながら、^②表音文字としても、表意文字としても使うという、とても複雑なやり方で、文字を日本の中に定着させていきました。

やがて、漢字の行書体、草書体をもつとデザイン化したひらがな文字と、漢字の文字の字画の一部をとつたカタカナ文字を表音文字として使うようになり、一方、漢字はそのまま表意文字として使うことが多くなりました。こうして、現在の日本語の表記に近いものが千年ほど前にはもうでき上がったのです。

D

現在の世界の動きは、そんなにゆっくりではありません。日本では、隣国に漢字を使う人びとがいて、その文字体系はとも発達していません。自分たちで文字を発明する必要はありませんでした。ひらがな、カタカナは、確かに日本語だけに見られる文字ですが、もとは漢字だったので。五百年かそれ以上の時間をかけて、ゆっくりと、日本人は日本語に都合がよいように、自分たちの言語を記す方法を開発したので。現在、もともと文字を持たなかつた人びとが、急速に自分たちの言葉を文字に記すことを求められています。社会の仕組み全体が、文字で記した書類を必要とし、口から耳へ、耳から口への語る言葉に、あまり価値を認めません。議会や裁判のような重要な場面では、確かに口から語られることばは大きな意味を持ちますが、それらはすべて文字として記録され、語つた人に、^③間違いなくそのように語つたかを確認します。そして、書かれた文章こそが、社会で権威と価値を与えられます。

かつてのモンゴルや朝鮮のように、中国文化の影響を受けながらも、漢字とはまったく別の文字を作り出した社会もあります。しかし、現在、新たに、文字で自分たちの言語を表わそうとする社会では、ほとんどすべて、アルファベットを使って、自国の文化の言葉を記し始めています。アルファベットは字数が少なく、子どもたちは覚えやすく、しかも表音表記ですから、子どもは容易に自分の話している言葉を文字にして記すことができます。アルファベットにない音は、それに少し印をつけておけばいいのです。

それでは、かつての日本人がした苦勞は無駄であつたかという、決してそうではないと、哲学者の和辻哲郎という人は言っています。つまり、漢字が中国語の文章として日本に持ち込まれた時、当時の日本人は、その漢字や漢文（中国文）を理解すると共に、中国文化の思想やそれまで日本文化になかつた抽象的な概念をも学び、さらに当時の日本の文化と比較するということをしたということです。それは、日本人の文化に

たいへん大きな発展をもたらしたと考えられています。

この時の経験は、千年もたつて明治時代を迎えた時、たいへん役に立ちました。それは西欧の社会制度や法律や哲学のような学問分野の言葉を、日本語に翻訳する時に、役に立ったのです。明治初期以降、日本の近代化は急速に進みましたが、それには西欧の思想や制度について当時の日本人に理解しやすい、ぴったりの言葉に翻訳されたことが、大きな役割を果たしました。

現在、英語は世界の共通語となっています。英語をその国の公用語として採用する国も多くなつてきています。そこで、英語は④ニケーションの「道具」として学ばよいと考える傾向も出てきています。通じればいいのだから、英語の単語がいくつもの意味を持つことや、文章構成の複雑さは切り捨てて、できるだけ単純化した英語でよいと考える人びともいます。しかし、千五百年前の日本人がしたように、悪戦苦闘しながら、英語をはじめ別の言語が示す論理や概念を、日本語と比較して受け入れる努力が必要だと思えます。それは、日本語をより洗練させるための糧とすることにもなると考えるからです。

(波平恵美子「生きる力をさがす旅 子ども世界の文化人類学」より)

問一 空欄 a へ d に入る接続詞の組み合わせとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、a つまり b たとえば c でも d そして
- イ、a そして b つまり c たとえば d でも
- ウ、a そして b たとえば c でも d つまり
- エ、a つまり b でも c たとえば d そして

問二 次の文章は、空欄 A D のどこに入るか。最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

日本にも、今から千五百年くらい前に語部かたりべがいて、大切な出来事の歴史を細かく記憶し、要請ようせいされれば語つたらしいことがわかっています。語部は、自分の好みで記憶したのではなく、王や支配者が、その社会の歴史を記憶しておく必要があつて、語部を要請したと考えられています。

問三 波線部1「へだたり」、2「糧とする」の本文中で用いられている意味として最も適切なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- 1 「へだたり」
 - ア、性質の違い。
 - イ、時間的な差。
 - ウ、文化の優劣。
 - エ、妨げるもの。
- 2 「糧とする」
 - ア、いざという時に備える。
 - イ、材料としてためておく。
 - ウ、活動を支える力にする。
 - エ、反省のために活用する。

問四 傍線部①「ヒエダノアレという語部が語った内容を、中国から取り入れた漢字を使って、オオノヤスマロという人が記録した」とあるが、それはなぜか。その理由の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、語りや記憶に頼る伝達方法では、その正確性において不都合が生じてしまうが、文字の利用によって、語部の考えや好みに左右されずにかつ正しく記憶に残る伝達が可能となるから。
- イ、かつての日本には文字がなく、社会や歴史に関わる様々な情報を語部によって伝えるしか方法がなかったが、その語部の養成が時代の変化とともに難しくなってしまう、文字の必要性が生じたから。
- ウ、語部によって語られる情報量をすべて記憶するには限界があるので、伝える内容を文字によって記録することで、伝える側と受け取る側の距離や年月に関係なく伝えることができるようになるから。
- エ、その社会の歴史をすべて記憶しておく必要があるが、その記憶がはたして正しいものかどうかをきちんと見極めるために、日本語ではない中国の漢字でそれらを記しておく必要があったから。

問五 傍線部②「表音文字」とあるが、漢字を日本語の「表音文字」として使うとはどうすることか。具体的に説明している部分を本文中より三十字以上三十五字以内で抜き出し、はじめと終わりの五字を答えなさい。

問六 傍線部③「書かれた文章こそが、社会で権威と価値を与えられます」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、文字を持たない人々にとって、文字そのものが強大な力を持つものとして存在していること。
- イ、文字で記した書類が、あらゆる場面における人々の社会生活のすべてを構成していること。
- ウ、社会の仕組みが、もはや文字に頼るしかなく、口から語られる言葉に意味がなくなっていること。
- エ、現在では、文字によって書かれたものや記録が様々な物事の判断や真偽の基準となっていること。

問七 傍線部④「単なるコミュニケーションの『道具』」とあるが、それはどのような英語のことか。具体的に説明している部分を本文より四十字以上四十五字以内で抜き出し、はじめと終わりの五字を答えなさい。

問八 二重傍線部X「この時の経験は、千年もたつて明治時代を迎えた時、たいへん役に立ちました」とあるが、それはなぜか。「この時の経験」が何であるのかもふまえて、六十字以上八十字以内で説明しなさい。ただし「漢字」「比較」「翻訳」の三語を必ず使って書くこと。

三 次の記事を読んで、後の各問に答えなさい。

霧雨きりさめになった。

窓の向こう、渋滞じゅうたいした山手通りの車列が雨に滲にじんで見える。

窓辺に寄ろうとすると、背後で乾燥機かんそくきのブザーが鳴った。窓ガラスに触れようとした手を戻して、店内に戻る。

大きな乾燥機の中に、色とりどりの洗濯物せんたくぶつが、ふと一息ついたようにふんわりと収まっている。これを作業台に移し、一枚一枚丁寧ていねいにたたんでいく。

新井文子が働く洗濯代行サービス店「WHITE DELI」は、東大駒場校舎にほど近い山手通り沿いにある。青と白を基調とした明るい雰囲気ふんいきの店舗てんぽのせい、はたまたその店名のせい、車で前を通ると、一見洒落しゅれつたカフェに見えなくもない。

実際、店ができたばかりのころ、近くに暮らす年配の女性がふらりと店に立ち寄り、「で？」「こ、何屋なにやさんなの？」と真顔まけんで尋ねてきたことがある。

文子はすぐにカウンターの外へ出て、この女性に店のチラシを渡した。渡しながら、これこれ、こういう店で、こういうサービスをやっていきますと、きちんと説明したのだが、「ああ。クリーニング屋さんなのね」と、やはり誤解ごげんされてしまう。

洗濯代行サービス店と、クリーニング店というのは、似ているようで別物べつぶつのだが、そこを簡単にうまく説明するのが（特に相手が高齢こうれいだと）難しい。

文子の店では、言葉通り洗濯の代行をやっている。普段、自宅の洗濯機で洗う物を、店専用のバッグに詰め込めるだけ詰め込んでもらい、それを預かって洗濯して、奇麗きれいにたたんで返すのだ。なので、ワイシャツやセーターなど、自宅で洗えないものを出すクリーニング屋とは、ある意味、まったく扱う物あつかうぶつが違う。

自宅で洗える物ならば、自宅で洗えばいいだろうに、と言う人も多いかと思われるが、洗濯というのは、今のご時世、全自動とはいえず、なかなか手間てまのかかる家事の一つで、たとえば共働きの夫婦ふうふだったり、仕事の忙しい一人暮らしひとり暮らしだったりすると、干したりたたんだりするその時間を利用して、何か他のことができるかと考える効率的な人も多いのだ。

元々、^①文子は服をたたむのが好きだった。

自分の物はもちろん、たまに友達ともだちの所へ遊びに行くと、女の子とはいえ、雑然ざつぜんとした部屋も多く、その大部分は脱ぎっぱなしだったり、タン

スから出しっぱなしだったりする洋服に原因がある。

友人と他愛のない雑談を交わしながら、文子は手元でそんな服をたたむ。

女の子同士の話なので、比較ひかく的、男の子に関する話題が多い。それも、彼氏とケンカしたとか、彼氏と別れたとか、彼氏が浮気うわきしたとか、どっかにいい男いいおとこいないかな？ とか、どちらかと言えば愚痴ぐちが多くなる。

これを喫茶店などで聞かされると、文子もつい相手の気持ちに乗っかって、「男ってやだよねえ」「もう別れちゃえば」と、火に油を「い」ことが多いいのだが、不思議なもので、これが洗濯物などをたたみながらだと、妙まように心が落ち着いていて、「そりゃさ、〇〇くんにも事情があるんじゃないの？」などと答えられるのだ。

文子は子供のころから、どちらかといえば、口の悪い子だった。幼い弟を泣かせ、いつも母親に叱しかられていた。

そんな時、母親は決まって、文子に洗濯物をたたませた。もちろん、いつも洗濯物だったわけではなく、茶碗ちやわん洗いを手伝たすわされたり、掃除そうじだったりしたのだろうが、なぜか文子が今でもはつきりと覚えているのは、悪さをして洗濯物をたたまされている情景だ。

作業台に移した洗濯物を、あらかじめたたみ終えたところ、集配に出していたアルバイトの米谷くんが戻ってきた。

ずぶ濡れで駆け込んできた米谷くんを見て、文子が店の外へ目を向けると、霧雨が本降りに変わっている。

「すいません、遅くなっちゃって」

濡れた髪をタオルで拭ぬぐきながら、米谷くんが洗濯物の詰まったバッグを棚たなに置く。

「お疲れさま。ずぶ濡れじゃない」

「止むと思ったんですけどね」

「傘、車になかったの？」

A

「面倒めんどうって……、米谷くんが濡れるのはいいけど、お客さんの洗濯物が濡れると困るんですけど」

「ちゃんと濡れないようにしますよ」

1 を尖とがらせて、米谷くんがスタッフルームに姿を消す。文子としても、ずぶ濡れで帰ってきた彼を「ろ」「つもりなの、^②なぜか

途中からこうなってしまうので困る。

「米谷くん！ そこにケーキあるから、食べていいからね」

「ご機嫌を」は「は」ように声をかけた。中から、「はーい」という不機嫌な声がある。

「ねえ、久保さんの所のマンションに、チラシ入れといてくれた？」

「はーい」

「瞬間、チラシ濡らさなかったでしょうね、と言いつつになり、慌てて口を閉じた。」

次の瞬間、^③相手も分かっていたようで、「チラシ、濡らしてませんから！」と返ってくる。

「そんなこと、誰も言っていないじゃない……、思ったけど……」

ぐつと堪えて、そう呟きながら、また洗濯物をたたみ始める。

米谷くんは、いわゆる俳優の卵で、このアルバイトは生活費を稼ぐためにやっている。

アルバイトの面接にやってきた時、俳優の卵なんですと言うものだから、てっきり素人に

だろうと勝手に思い込んでいたのだが、ある時、ぼんやりと自宅でテレビを見てみると、誰でも知っているファストフード店のCMが流れてい

て、画面いっぱい米谷くんの顔が映って驚いた。

翌日、早速CMを見たことを米谷くんに告げた。

「すごいじゃない！ あんなにアップでハンバーガー頬張ってるから、一瞬、別人かと思ったよー」

興奮する文子の前で、米谷くんは、「あー、あれっすか」と、うんざりしたような顔をする。

「俳優の卵なんて言うから、てっきり下北沢の居酒屋とかで騒いでる小劇団の団員ぐらいに思ってたけど……」

「いや、そうっすよ。小劇団の団員で、居酒屋とかで騒いでますけど」

「え？ そうなの？ でも、テレビであんな有名な会社のコマーシャルに出て……」

「だから、あれは生活費稼ぐために仕方なく……」

「あんた、仕方なくCMでテレビに映れるってすごいじゃない？」

「^B」

この会話からだったと思う。文子は米谷くんと、弟の雅夫が、どこか似ているような気がしてならなくなった。

すごいと褒めてやっていることを、素直に認めない。かといって、けなせば、¹を尖らせて本気で怒る。

弟の雅夫は、大学を卒業後、就職もせず、バイトして金を貯めては、世界各国に放浪の旅に出ている。田舎の両親などは、もう心配する気も失せたようで、「最近、海外で何か事故が起こった時くらいしか、あの子のこと思い出さないと笑っているが、内心穏やかではないはずだ。

今年の正月、珍しく雅夫が日本にいたので、³根っこを引っ掴んで田舎の両親の元へ連れて帰った。久しぶりにたつぷりと説教してや

ろうと意気込んでいたのだが、弟の話によると、「今、向こうでボランティアやってんだよ」と言う。なんでも井戸を掘るNGOだかなんだかの一員として。

「それがあんたのやりたかったことなの？」と文子は訊いた。

「^C」

「と弟が答える。」

「そんな気持ちで井戸掘ってもらったって、向こうだって嬉しいんじゃないの？」と文子は言った。

「どんな気持ちだろうが、水が出れば嬉しいもんだろ」と弟が答える。

相変わらず可愛くないなと思いつつも、^④目の前の弟がいつの間にかとても成長したように見えた。

洗濯物をたたみ終えた所で、電話が鳴った。

わりと近所のお客さんだったので、すぐに伺いますと答えて電話を切った。ふと外を眺めると、いつの間にか雨が上がっている。山手通りの渋滞は益々ひどくなっているが、傘を閉じて歩いていく人たちの顔がどこか晴れ晴れして見える。

この店には、いろんなお客さんからの洗濯物が集まってくる。仕事場で、デートで、活躍したTシャツが、次の出番を待つて送られてくる。文子たちはそれらを洗濯し、きちんとたたんでお客に返す。折り目正しくたたまれた洗濯物は、とても美しい。

集配にでもらおうと、文子はスタッフルームの米谷くんへ声をかけた。何度か呼んでも返事がないので、昼寝でもしているのかとドアを開

けると、直立不動の彼が緊張した⁴持ちで誰かと電話で話している。

「はい！ ありがとうございます！ はい！ 一生懸命がんばります！」

声を弾ませた米谷くんが、震える手で電話を切る。

「^D」

そう訊きながら、文子にはとても良い予感があった。どうせ米谷くんのことだから、ここで褒めても、素直には喜ばない。

「雨、上がったよ。集配！」と文子が言うと、「……みたいですわね！」と、嬉しそうな米谷くんがガッツポーズをとった。

問一 空欄 A ～ D に入る会話文として最も適切なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい（同じ記号は二度使えません）。

- ア、別に。誘われたから
- イ、な、何？ どうしたの？
- ウ、そうっすか？
- エ、いや、あつただけけど、面倒で

問二 空欄 1 ～ 4 に身体の部分に関係する漢字を一字ずつ入れ、最も適切な表現を完成させなさい。

問三 空欄【い】～【は】に入る最も適切な表現を次から選び、それぞれ記号で答えなさい（同じ記号は二度使えません）。

- ア、こぼす
- イ、うかがう
- ウ、注ぐ
- エ、ねぎらう

問四 傍線部①「文子は服をたたむのが好きだった」とあるが、それはなぜか。その理由を本文中の表現を用いて五字以上十字以内で答えなさい。

問五 傍線部②「なぜか途中からこうなってしまうので困る」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、雨に濡れながらも洗濯物の集配をきちんと成し遂げようとする「米谷くん」の努力を励まそうとするが、どのように言葉をかけることが良いのか分からないということ。
- イ、洗濯物の集配を面倒そうにしている「米谷くん」の様子を見て、会社の責任者としてアルバイトの仕事に対する指導がまだまだきちんと行き届いていない状況を痛感しているということ。
- ウ、「米谷くん」の立場に立って声をかけてあげようとするが、それよりも洗濯物の管理やその集配がきちんとなされているのかということが優先して気にかかってしまうということ。
- エ、洗濯物の集配を雨の中でも一生懸命している「米谷くん」を褒めてあげたい気持ちがあるのだが、生まれつきの口の悪さとひねくれた性格から、逆に皮肉を言ってしまうということ。

問六 傍線部③「相手も分かっていたようで」とあるが、それはなぜだと考えられるか。その理由の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、「文子」の口うるさい性格をよく理解している「米谷くん」は、チャシ配りのことについても必ず何かしらの小言を言ってくるであろうことは、分かっていたから。
- イ、「米谷くん」は、日頃の「文子」とのやりとりから、雨の中でのチャシ配りについても、洗濯物と同様の言葉が「文子」から発せられるという予測がついたから。
- ウ、「文子」は、「米谷くん」が真面目に仕事に取り組んでいないことを指摘しようとしたが、実際は「米谷くん」自身もそのことをきちんと自覚していたから。
- エ、雨に対する「文子」のこだわりを「米谷くん」は深く理解しており、雨の中での仕事の仕方について「文子」がどのような発言をするかを知り尽くしていたから。

問七 傍線部④「目の前の弟がいつの間にかとても成長したように見えた」とあるが、それはなぜか。その理由の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、「文子」は、大学卒業後も就職せずに世界を放浪している弟を評価していなかったが、弟との会話の中で弟が自分なりの考えを持ってボランティア活動をしていることに気づいたから。
- イ、「文子」は、働きもせず自分の都合ばかりを優先している弟に嫌気がさしていたが、弟の行動から他人に惑わされることなく一人でも生きていけるだけの弟の決意を見いだしたから。
- ウ、「文子」は、弟が海外でボランティア活動を行っていることに感心していたが、弟とのやりとりを通して、弟が信念を貫こうとしている姿勢を改めて確認することができたから。
- エ、「文子」は、弟が両親の心配をよそに何も考えず生きていくことに激しい怒りを覚えていたが、ボランティア活動では現地の人の気持ちを第一に考えていることを確認できたから。

問八 この作品の内容や表現上の特徴はどのようなものか。その説明として当てはまらないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、いろいろな場面で活躍した洗濯物を洗濯し、きちんとたたんでお客に返すという洗濯代行という仕事に「文子」が喜びや誇りを持つている姿が生き生きと描かれている。

イ、洗濯物をたたむという行為が「文子」にとって深い意味のあるものとして物語に位置づけられており、特に「文子」の性格がそのことから読みとれるように描かれている。

ウ、「文子」と「米谷くん」のやりとりを通して、それぞれの登場人物の心情や性格が浮き上がるように物語が展開されており、またそれが何気ない日常の中で描かれている。

エ、「文子」をはじめ登場人物たちの心情が細やかに述べられて物語が展開していく中で、特に「文子」が人生についての新しい価値観を見いだしていく過程が描かれている。

